

3. 事業評価

3-1. 事業評価の観点と方法

3-1-1. 事業評価の観点

本事業は主に2つの観点で評価される。1つめの観点はプロセス評価であり、学習プログラムの開発、派遣/受け入れの時期や人数について目標値を達成できたか、また、事業の遂行過程や現場での運営が円滑であったかを評価するものである。2つめの観点は学習成果の評価であり、GRIPを通して育成を目指す「どの国、どの地域であっても、自国でも他の国でも健康関連の課題に他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人」が含有する3つの能力：①連携実践能力、②問題解決能力、③Cultural Competence がプログラムを通してどの程度、またどのように発達したかを評価するものである。

3-1-2. プロセス評価の方法

プロセス評価と学習成果の評価は共に、定量的評価と定性的評価を併せて総合的に実施した。プロセス評価は、事業計画と実績の数値的な比較による定量的評価のほか、今年度のカウンターパート大学であるシンビヨシス国際大学のスタッフおよび現地演習にご協力いただいた各フィールドの担当者からのヒアリングに基づいて、次年度以降踏襲すべき点と改善すべき点を定性的に収集した。ヒアリングは全てのプログラム終了後にオンラインで担当者へ依頼し、オンラインの文書で回答を得た。

3-1-3. 学習成果の評価方法

学習成果の評価のためには、GRIP参加前後に3つの能力を測定し統計的にその変化を検討する定量的評価と、参加学生有志からのインタビューに基づく定量的評価を実施した。定量的評価の実施時期は、千葉大学およびシンビヨシス国際大学の学生ともに、事前学習開始前(2月)とメタバースでの最終プレゼン終了後(3月)である。回答は任意であり、Google FormsとBEVI[※]を使用してオンラインで回答依頼を送り、プログラム評価を目的とした測定であることや回答の有無や内容が成績に影響しないこと等の説明事項を読んだ上で「同意し回答を始める」を選択した学生のみが回答に進んだ(資料5)。インタビューは最終プレゼン後に口頭とオンラインで協力依頼をし、定量的評価と同様に個人情報保護の方針を含む事項に同意した有志学生に協力してもらう形をとった。説明事項に同意した学生がスケジュール調整ツールを用いて都合のよい時間を予約し、一人につき約30分オンラインでのインタビューを実施した。以上のプログラム評価は千葉大学看護学研究科の倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号NR4-109)。学生に提示した説明事項や質問項目等、詳